

令和4年度上半期 経営報告会

令和4年11月21日



目次

持続可能な社会の実現に向けた取り組み

気候変動への取り組み … 3 SDGsへの取り組み … 5

令和4年度上半期の業績（2022年4月～9月）

1-1 預金積金の残高 ……………	8	4-2 有価証券の評価損益 ……………	15
1-2 預金積金の内訳 ……………	9	5-1 純資産の状況 ……………	16
2-1 貸出金の残高 ……………	10	5-2 自己資本の状況 ……………	17
2-2 貸出金の内訳 ……………	11	5-3 不良債権の状況 ……………	18
3-1 損益の状況 ……………	12	6 2022年度計画の進捗状況 ……………	19
3-2 損益の増減要因 ……………	13		
4-1 有価証券の運用状況 ……………	14		

対処すべき課題への取組状況

課題1. 「地域力の強化」への取組状況 ……………	21
課題2. 「自律型人材の育成」への取組状況 ……………	27
課題3. 「業務イノベーション」への取組状況 ……………	29

本資料に記載の計数は、単位未満を切り捨てて表示しております。
なお、合計等は原数値で計算してから切り捨てて表示しておりますので、
表上の合計が一致しない場合があります。

持続可能な社会の実現に 向けた取り組み

気候変動への取り組み



へきしんの気候変動への取り組み

■ 経営企画部内に「環境戦略グループ」を新設

■ TCF D 提言への賛同の表明と情報開示

※信用金庫業界では2金庫目に表明しました。



■ 環境省の「令和4年度ESG地域金融促進事業」の支援先金融機関として当金庫が採択

※全国で8件が採択されました。

■ 本店・本部ビルで使用する電気の全量を愛知県産CO₂フリー電気の「愛知Greenでんき」に変更

地球にやさしく、未来を明るく。



当金庫が積極的に気候変動に取り組むことにより、地域社会の気候変動への対応に貢献してまいります

気候変動への取り組み



お客様の気候変動対応への支援

- 「カーボンニュートラルセミナー」を
安城商工会議所、安城市などと共催
- カーボンニュートラル支援業務の取扱開始
CO₂排出量の算定および削減支援と、サプライチェーン
連携機能の提供を行っています。
- 令和4年度「省エネルギー設備投資に係る
利子補給金」制度の指定金融機関に認定
- 「地球にやさしいリフォームプラン」の
取扱開始



気候変動対応に関するお客様のニーズを適切に把握し、
課題解決に向けた支援を積極的に行ってまいります



カーボンニュートラルセミナー

SDGsへの取り組み

持続可能な地域社会の実現への取り組み

- 地域の中学校や高等学校でSDGsに関する出前授業を実施



愛知県立安城高等学校



知立市立竜北中学校

- 「緑の募金」に寄付

役職員から集まった募金を
安城市緑化推進委員会に贈呈



SDGsへの取り組み

持続可能な地域社会の実現への取り組み

●SDGs 寄贈型私募債 「パートナーブリッジ」の寄贈品を贈呈

寄贈型私募債	2022年度上期	2019年度～ 累計
受託数	7件	51件



タブレット端末などを寄贈
(藤田医科大学病院)



●「みよし市SDGs推進パートナー」 の登録企業に認定



左より：小山祐みよし市長、齋藤みよし支店長

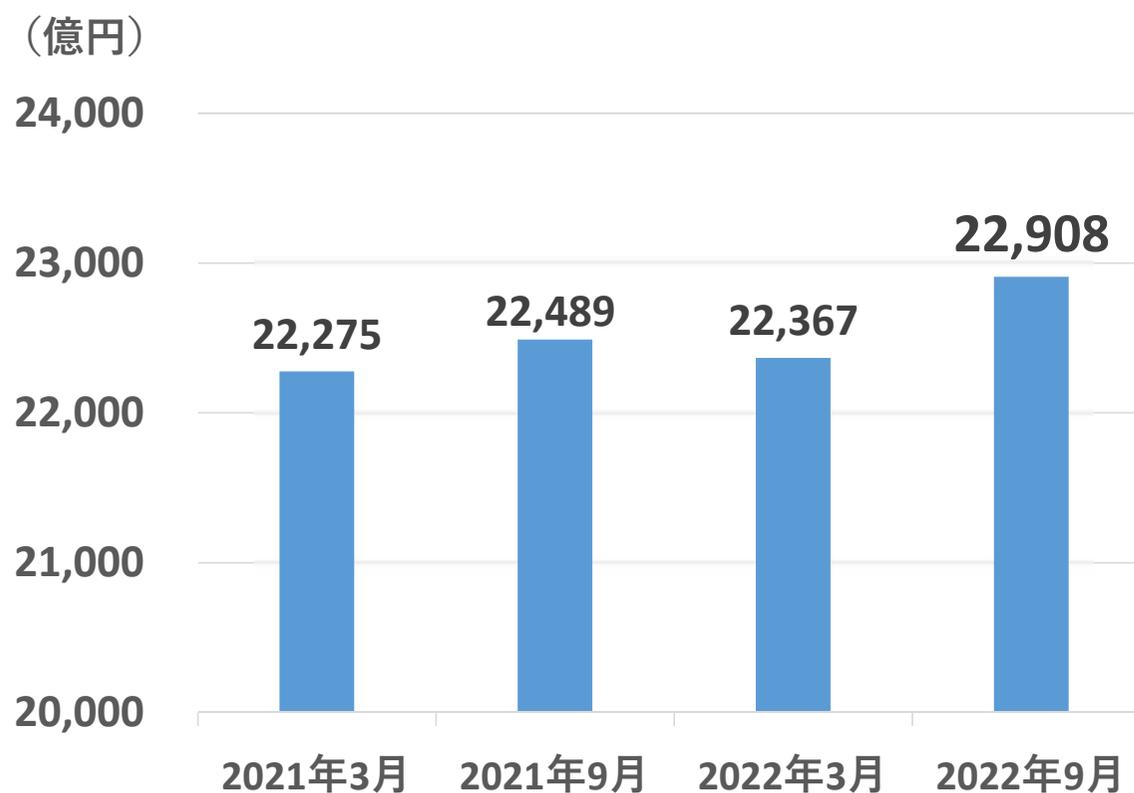


令和4年度上半期の業績

(2022年4月～9月)

1-1 預金積金の残高

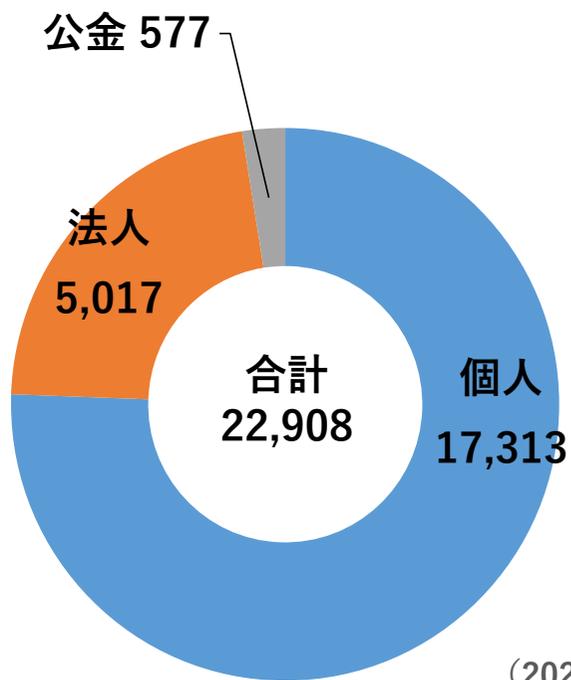
□ 預金積金残高は2兆2,908億円、前期末比540億円増加



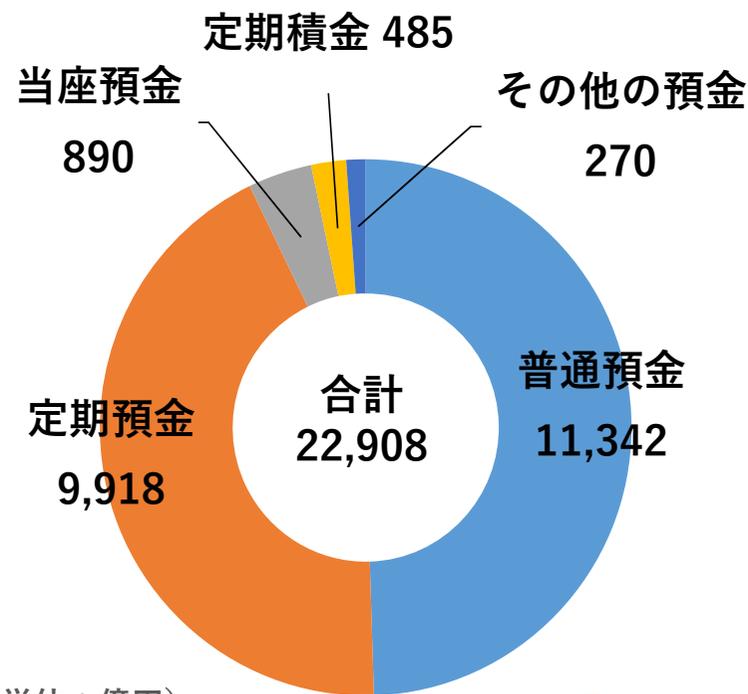
1-2 預金積金の内訳

- 個人のお客さまからの預金積金が全体の75.5%
- 科目別では、普通預金が全体の49.5%

預金者別預金積金残高



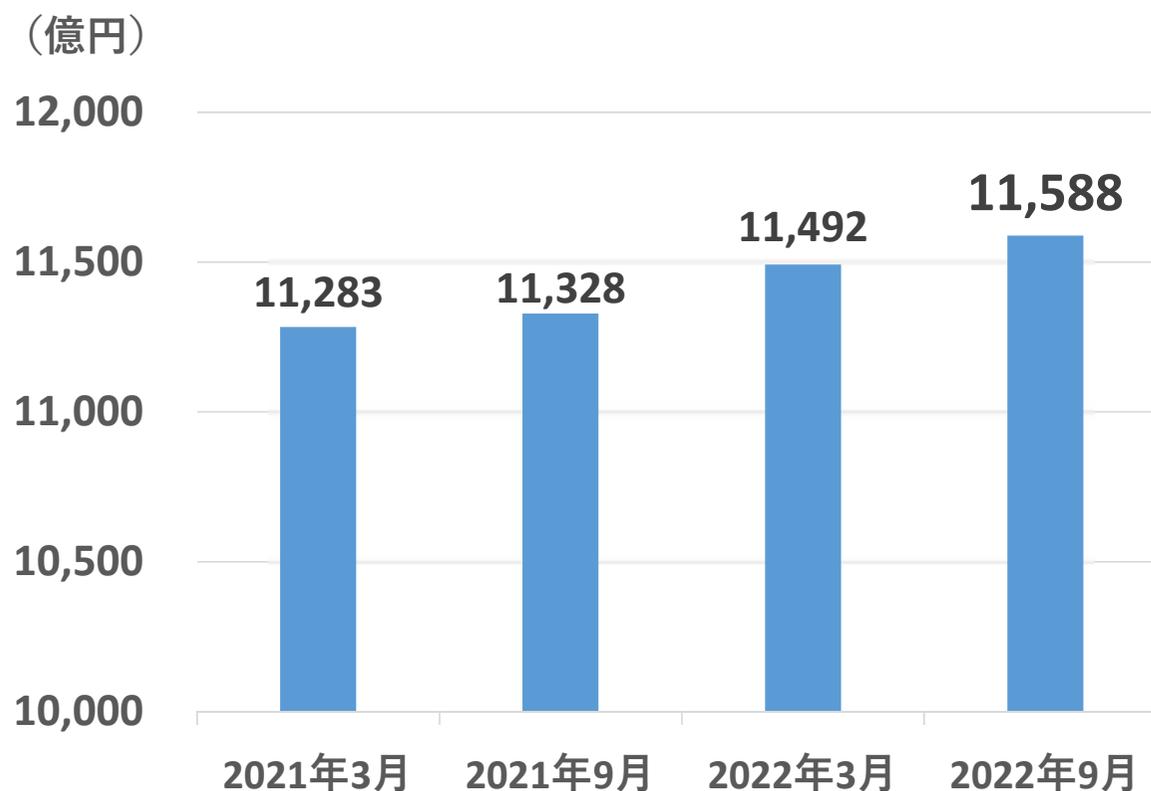
科目別預金積金残高



(2022年9月末、単位：億円)

2-1 貸出金の残高

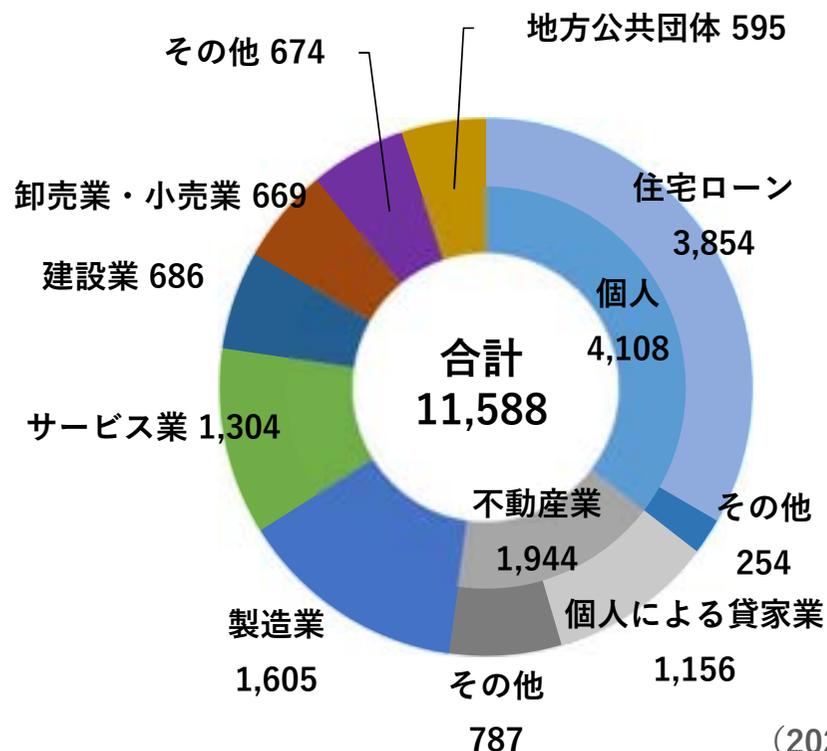
□ 貸出金残高は1兆1,588億円、前期末比95億円増加



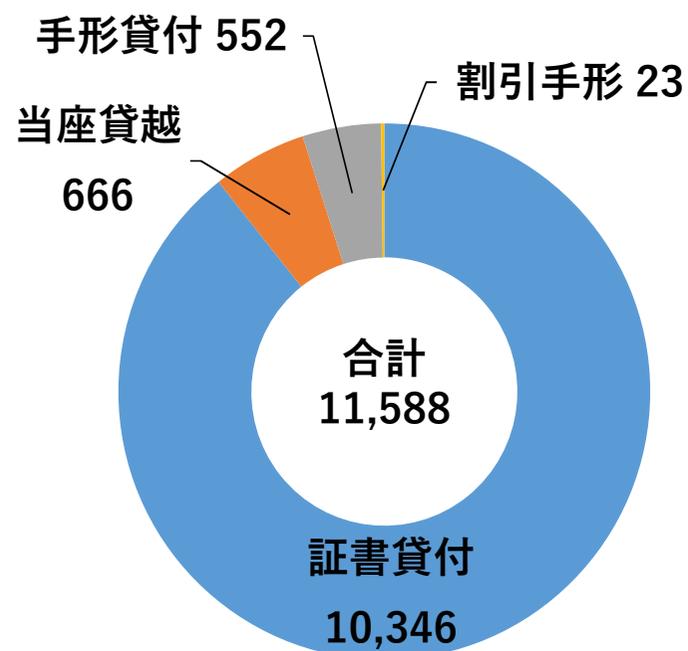
2-2 貸出金の内訳

- 特定の業種に偏ることなく、幅広い業種の資金需要に対応
- 事業者向けの貸出金が全体の59.4%、個人向け貸出金が全体の35.4%

業種別貸出金残高



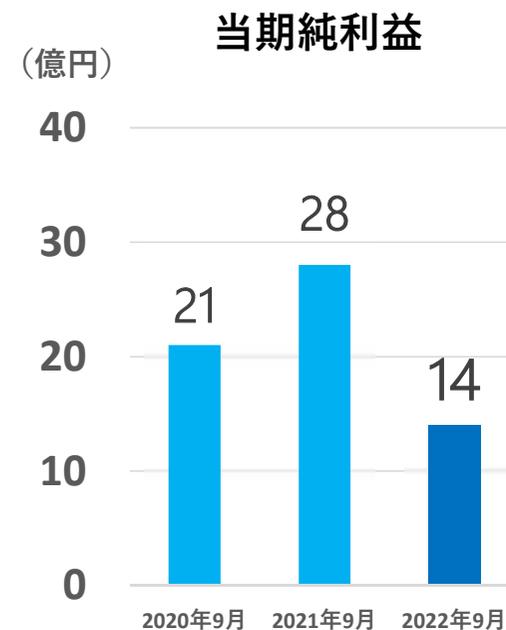
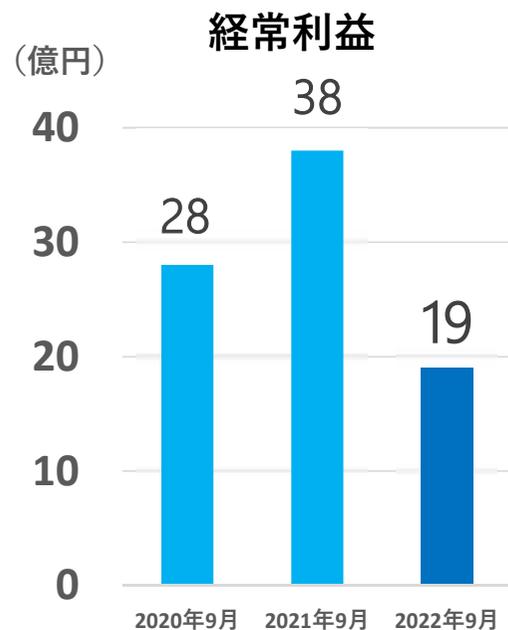
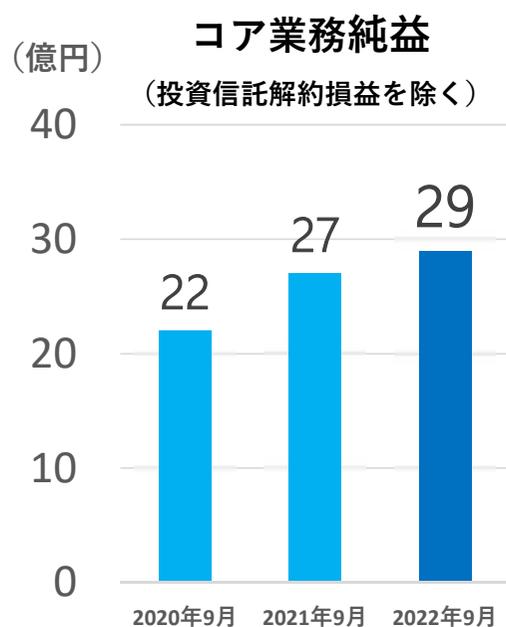
科目別貸出金残高



(2022年9月末、単位：億円)

3-1 損益の状況

- コア業務純益（投資信託解約損益を除く）・・・前年同期比 + 1 億円
- 経常利益・・・前年同期比 △19億円
- 当期純利益・・・前年同期比 △13億円



3-2 損益の増減要因

(単位：百万円)

	2021年度 上半期	2022年度 上半期	増 減
業務粗利益	11,268	7,353	△3,914
資金利益	10,507	8,847	△1,660
役務取引等利益	570	910	340
その他業務利益	190	△2,403	△2,594
国債等債券関係損益	162	△2,425	△2,587
経費	7,732	7,652	△80
人件費	4,908	5,071	162
物件費	2,471	2,283	△187
一般貸倒引当金繰入額	—	—	—
業務純益(※1)	3,535	△298	△3,834
臨時損益	272	2,203	1,930
不良債権処理損益	62	282	219
株式等関係損益	118	1,829	1,710
経常利益	3,807	1,903	△1,903
特別損益	△2	△2	△0
当期純利益	2,831	1,478	△1,353

実質業務純益(※2)	3,535	△298	△3,834
コア業務純益(※3)	3,373	2,126	△1,246
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	2,744	2,930	186

※1 業務純益とは、金庫の基本的業務に係る利益です。

※2 実質業務純益とは、業務純益から、一般貸倒引当金繰入額の影響を除いたものです。

※3 コア業務純益とは、業務純益から、一時的な変動要因（一般貸倒引当金繰入額および国債等債券関係損益）を除いたものです。

(単位：百万円)

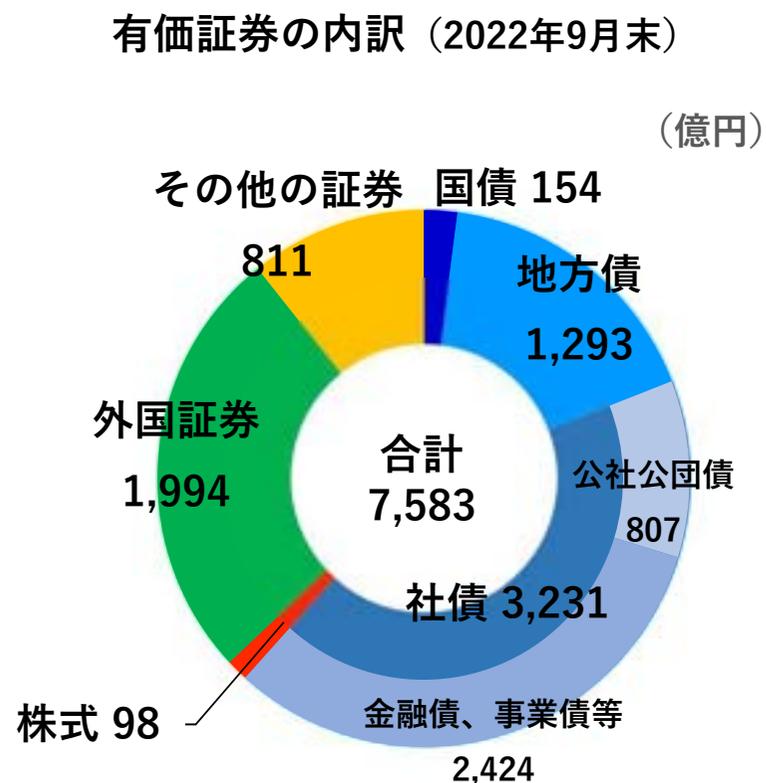
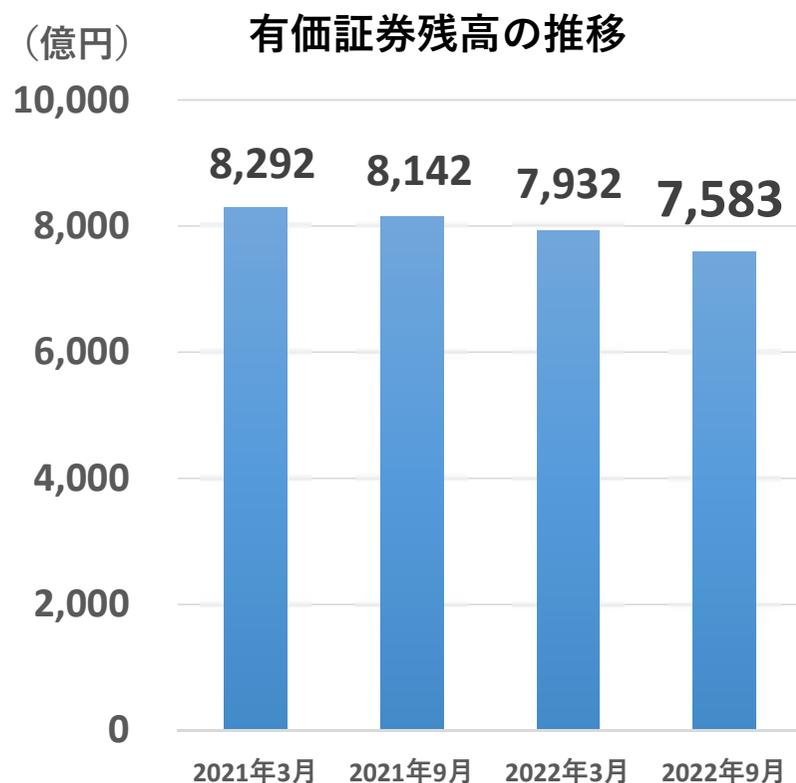
(資金利益の内訳)	2021年度 上半期	2022年度 上半期	増 減
資金運用収益	10,739	9,053	△1,686
貸出金利息	5,420	5,372	△47
預け金利息	335	312	△23
有価証券利息配当金	4,764	3,142	△1,622
資金調達費用	232	206	△26
預金利息	228	203	△25

海外金利上昇の影響により、国債等債券関係損益など有価証券運用に係る損益が減少し、当期純利益は、前年同期比13億円減少の14億円となりました。

一方で、役務取引等利益の増加などにより、金庫の基本的業務に係る利益から一時的な変動要因と投資信託解約損益を除いたコア業務純益は増加しました。

4-1 有価証券の運用状況

- 有価証券残高は7,583億円、前期末比349億円減少
- 海外金利上昇など金融市場の大きな変動を踏まえ、リスクを抑制



4-2 有価証券の評価損益

- 有価証券の評価損益は△271億円、前期末比219億円減少
- 海外金利上昇などにより、評価損が拡大

有価証券の評価損益

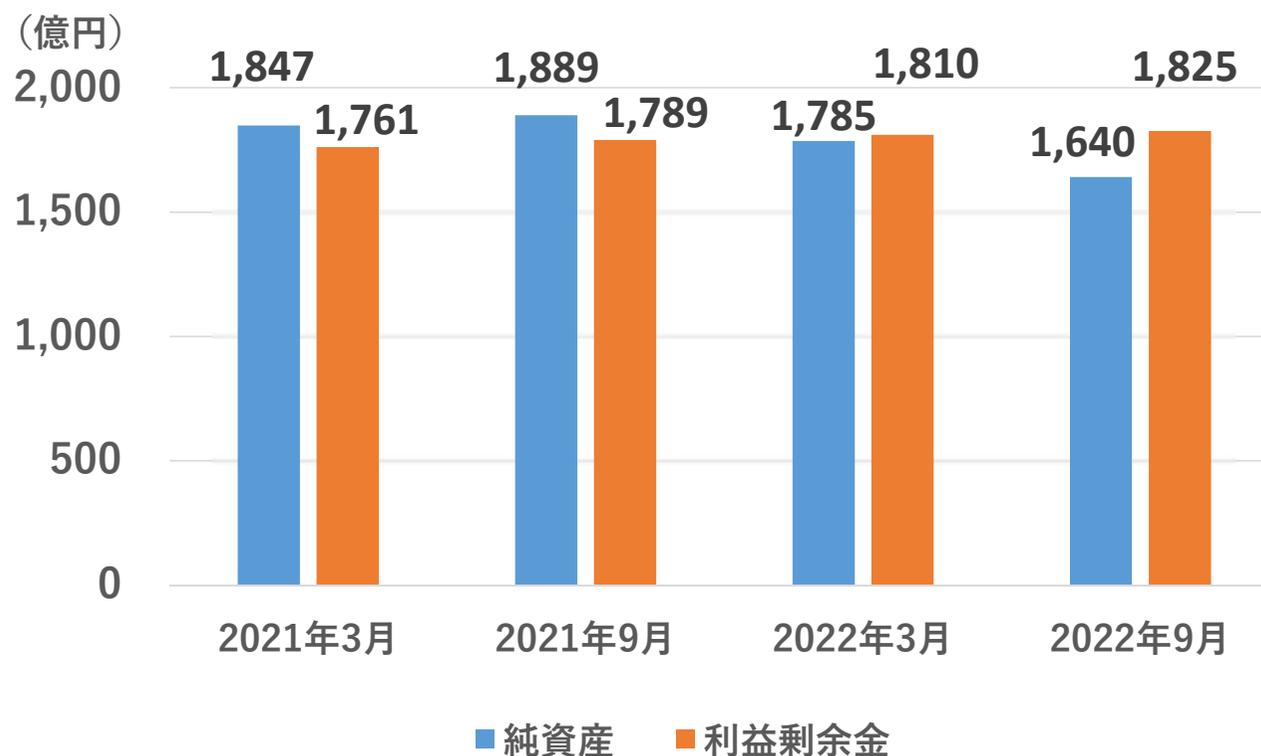
(億円)

	2022年3月末	2022年9月末	増 減
有価証券 計	△52	△271	△219
株 式	52	27	△25
債 券	1	△97	△98
その他	△105	△202	△97

※その他は、外国証券、投資信託等

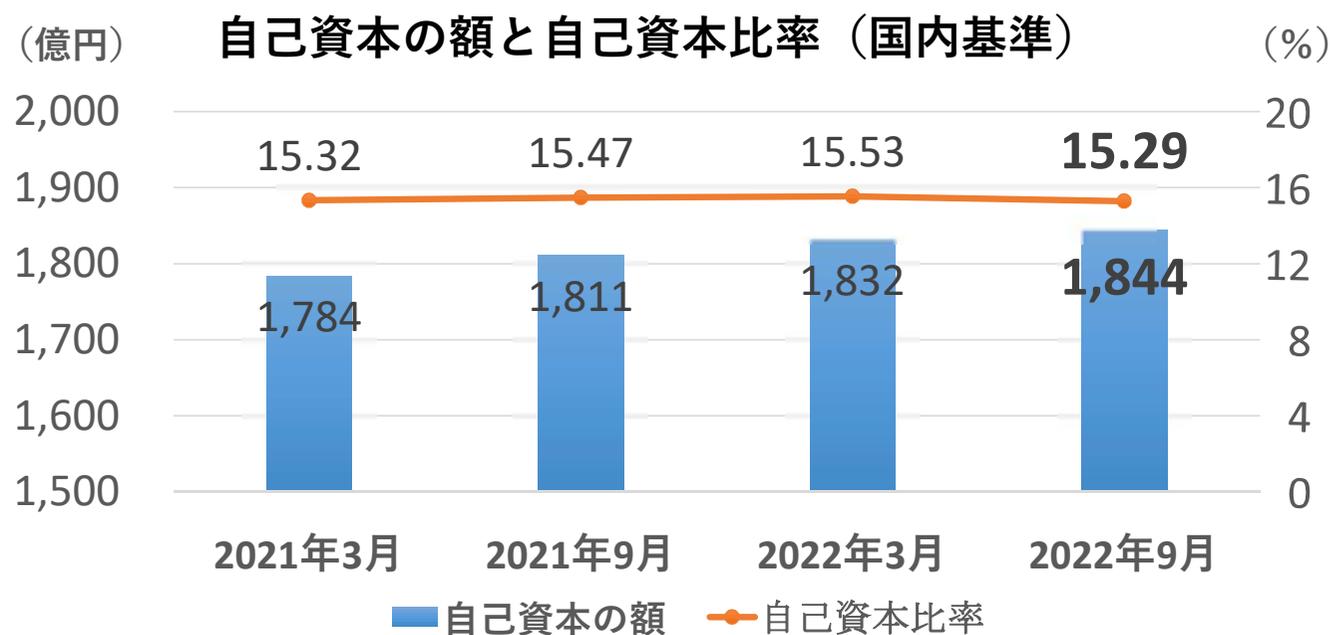
5-1 純資産の状況

- 海外金利上昇に伴い、その他有価証券評価差額金が減少し、純資産は1,640億円、前期末比145億円の減少
- 利益剰余金は1,825億円、前期末比14億円の増加



5-2 自己資本の状況

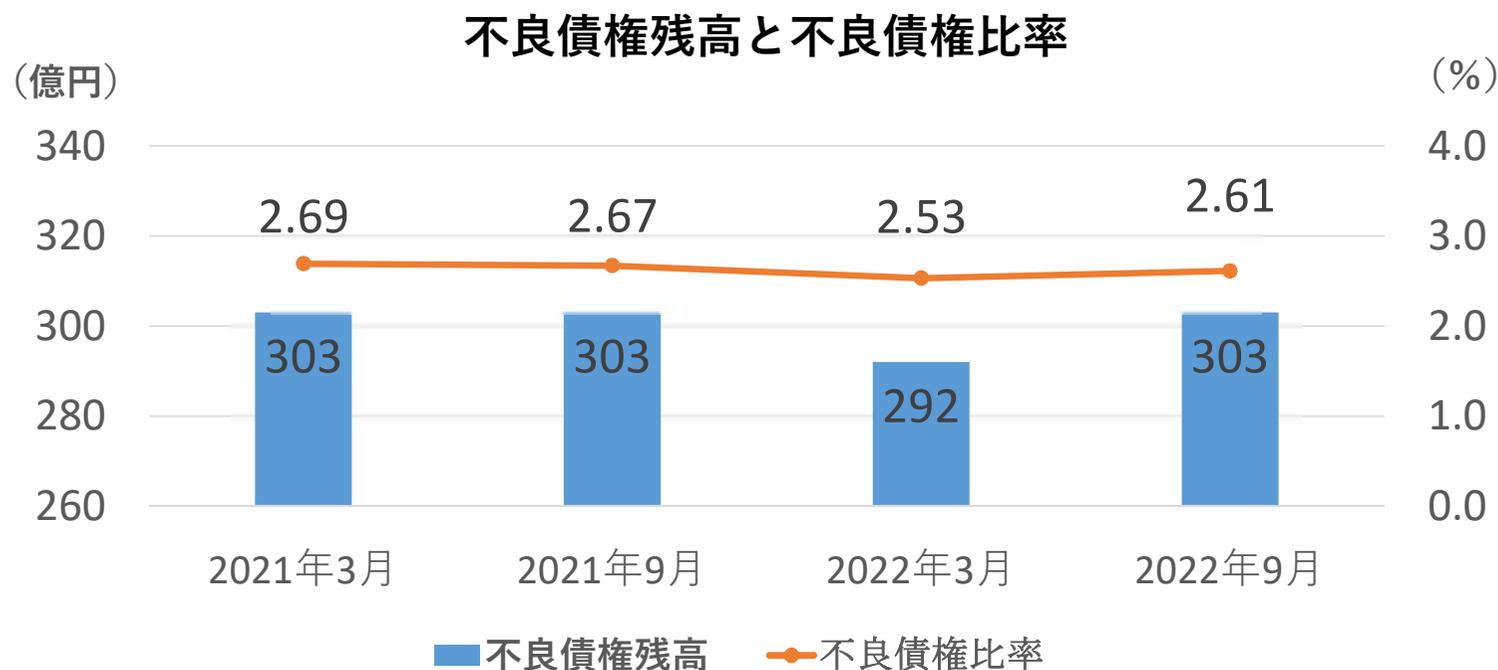
- 自己資本の額は、毎期の利益計上により着実に増加
- 自己資本比率は、総資産の増加等の要因により低下し、15.29%



$$\text{自己資本比率(\%)} = (\text{自己資本額} \div \text{リスクアセット}) \times 100$$

5-3 不良債権の状況

- 不良債権残高は303億円、不良債権比率は2.61%
- 不良債権に対する保全率は91.5%



※ 当金庫は債務者に対する債権のうち、回収可能性がないと判断した部分について、直接貸借対照表から減額する部分直接償却を実施しています。
※ 不良債権比率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

6 2022年度計画の進捗状況

□ 第10次中期経営計画（3カ年計画）の2年目

指標	項目	2022年度 計画	半期実績
収益性	お客さま向けサービス業務粗利益（※1）	11,800百万円	6,180百万円
	コア業務純益（※2） （投資信託解約損益を除く）	5,900百万円	2,930百万円
生産性	コアOHR（※3） （投資信託解約損益、減価償却費、預金保険料を除く）	65.00%以下	65.91%
規模	預金残高（期中平均残高）	22,700億円	22,738億円
	貸出金残高（期中平均残高）	11,690億円	11,468億円
	預貸率（期中平均残高）	51.50%	50.43%

（※1）貸出金利息－預金利息×預貸率＋役務取引等利益

（※2）業務純益＋一般貸倒引当金繰入額－国債等債券関係損益－投資信託解約損益

（※3）（経費－減価償却費－預金保険料）÷（業務粗利益－国債等債券関係損益－投資信託解約損益）

対処すべき課題への取組状況

- 課題 1. 地域力の強化
- 課題 2. 自律型人材の育成
- 課題 3. 業務イノベーション

課題 1. 「地域力の強化」 への取組状況

地域力の強化

～ お客さま・地域を起点としたコンサルティング営業の強化 ～

●課題解決を起点としたコンサルティングサービスの強化

■名古屋商工会議所との初の連携商談会
「発注企業を招いての個別商談会」を開催

開催日	2022年9月14日・21日 (2日間)
開催場所	名古屋商工会議所
発注企業	10社 (スーパー、商社、メーカー等)
参加企業数	83社(商談数97件)
商談形式	面談およびWEB形式



今後もお客さまの新たな
ビジネス展開を応援してまいります

地域力の強化

～ お客さま・地域を起点としたコンサルティング営業の強化 ～

●課題解決を起点としたコンサルティングサービスの強化

■事業承継・M & Aに関する相談対応力の強化

事業承継のサポート強化、M & Aにかかるアドバイザー業務を推進しています。

		2022年度上期
< M & A >	成約件数	6件
< 事業承継 >	相談件数	201件
< M & A >	相談件数	104件

■相続に関する相談対応力の強化

相続支援センターを中心に、相談対応力の強化に努めています。

		2022年度上期
	相続等相談件数	462件

コンサルティング機能を発揮することにより、お客さまの課題解決に向けて支援してまいります

地域力の強化

●あらゆるライフイベントにおける相談対応力の強化

■職域サポート制度の充実

へきしんの職域サポート制度とは

お客さまが勤務されている職場で、セミナーや相談会などの開催を通じて、さまざまなサービス・商品をご提案することで、お客さまの資産形成やライフプランのサポートを行っています。

- ・ 当金庫のホームページに職域専用ページを新設
※職域専用ページ開設記念キャンペーンの実施
- ・ WEB完結型の職域サポートローンの取扱開始
- ・ 職域専用定期預金「サポ×ジョブ」の取扱開始
- ・ お客さまからの各種ご相談への対応



ホームページ（イメージ）

地域力の強化

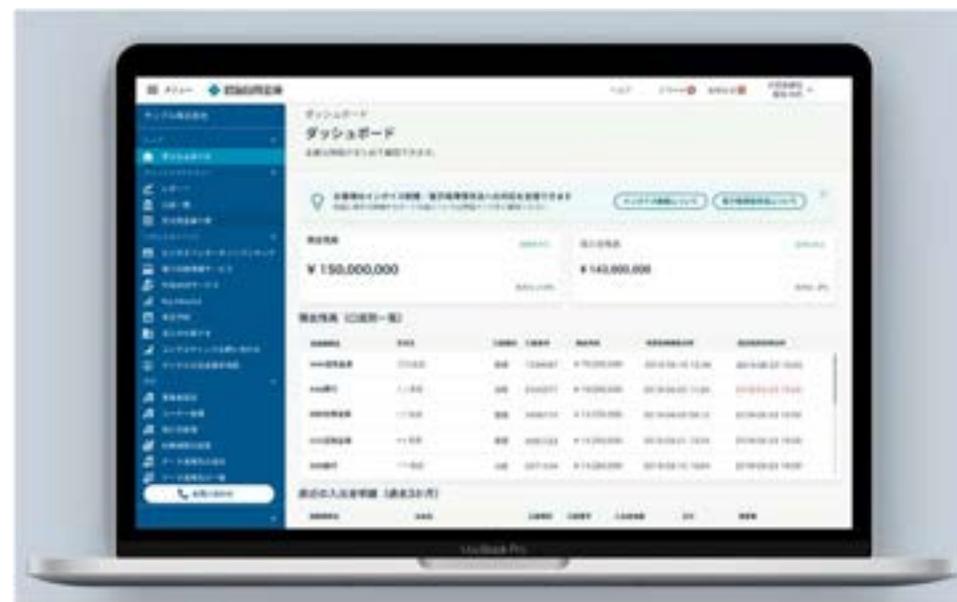
●デジタルサービスを通じた新たな価値の提供

■「へきしんビジネスポータル～スマート管理Biz～」 11月21日（月）よりサービス開始

- ・ 資金管理業務の効率化につながる各種機能を搭載
- ・ インボイス制度や電子帳簿保存法にも対応

<主な機能>

- ・ 資金繰り管理
- ・ 請求書管理
- ・ 電子ファイル共有・保存
- ・ 各種課題解決支援
- ・ 各種お知らせ通知
- ・ 各種リンク など



画面イメージ

引き続き、お客さまの利便性向上に向けた
サービスの充実に努めてまいります

地域力の強化

●お客さまの多様なニーズへの対応

■ファンドラップ（投資一任サービス） 「へきしんゴールナビ」の提供開始

- ・コンサルティングコース（店頭型）とアプリコース（WEB完結型）の2種類をご用意。
- ・お客さまに、少額からお手軽に運用を始めていただけます。
- ・ニッセイアセットマネジメントのファンドラップの取り扱いは、地域金融機関では初です。

■電子メールによるメールマガジンの配信開始

■各種WEBセミナーの開催

- ・「インボイス制度×改正電子帳簿保存法」対応・実践セミナー
- ・サイバーセキュリティ対策オンラインセミナー 等



「へきしんゴールナビ」チラシ



メールマガジン（イメージ）

課題 2. 「自律型人材の育成」 への取組状況

自律型人材の育成

～一人ひとりがやるべきことを考え、行動できる強い組織へ～

●人事制度の改革

- ・再雇用職員の「ステップアップ制」の導入
- ・「360度サーベイ」の実施、検証

●多様な人材が活躍できる 組織作りに向けた人材育成

- ・オンデマンド方式によるWEB研修の実施

●職員の満足度、帰属意識の向上

- ・「職員満足度アンケート」の実施、検証



WEB研修（画面イメージ）

これら各種取組を通じて、
「自律型人材の育成」を着実に進めてまいります

課題3. 「業務イノベーション」 への取組状況

業務イノベーション

～ 職員のパワーをお客さまのためにシフト ～

●内部事務削減、お客さまとの時間創出

- ・住宅ローン契約における「電子契約サービス」の取扱開始
※京都信金、横浜信金、(株)情報企画と共同開発
- ・本部への営業店の融資事務集中化
☞ 営業店融資事務（上半期）約2,500時間削減
- ・営業店窓口支援システム等の導入
☞ 営業店事務（上半期）約1,800時間削減
- ・現金配送業務の外部委託開始
- ・お客さまへ取引内容に応じたご提案をするための情報利活用への取り組み



お客さまとの時間を創出するため、
内部事務の削減や営業効率の向上を
進めてまいります

コンプライアンス態勢の高度化

- ・ 経営環境の変化に対する改善提言の実施
- ・ お客さま本位の業務運営の実践
- ・ 業務やリスク管理態勢の課題把握
- ・ 自律型コンプライアンス意識の醸成
- ・ リスクベース監査への深化、経営監査に向けた取り組み
- ・ 監査人材の育成

お客さまに安心してご利用いただける金庫を目指し、
取り組んでまいります

本日は、経営報告会にご参加いただき、誠にありがとうございました。
本日の説明内容に関するご照会等がございましたら、下記までお願いいたします。

【お問い合わせ先】

碧海信用金庫
経営企画部 企画グループ
TEL 0566-77-8102

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は、経営環境の変化などにより、変動する可能性があることにご留意ください。
また、本資料に掲載されております計数につきましては、会計監査人の監査を受けておりません。